



テクノス通信



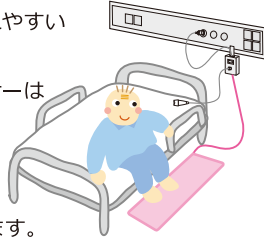
5月
vol.96
2017

今月のテーマ 「センサー変更で課題解決その① ～ケーブルタイプの課題を解決～」

今月号から3回にわたりセンサーを変更して上手く運用できた例、また応用例などをご紹介します。
第1回は「ケーブルタイプの床敷きセンサー」から「コールマット・コードレス」に変更した例です。

「ケーブルタイプのセンサー」の課題

現在、看護現場ではシンプル設計で取り入れやすい「ケーブルタイプの床敷きセンサー」が多く導入されています。しかし、設置したセンサーはすべてがうまく運用できるとは限らず、さまざまな課題があるのが現状です。そこで、「コードレスタイプ」に変更し課題が解決できた4つの例をご紹介します。



- 課題① 患者様がケーブルに足を引掛けたり、引張ったりしてしまう。
- 課題② ケーブル部をベッドや車いすが通る。
- 課題③ 電源を入れ忘れてしまう。
- 課題④ 設置時の配線作業が手間！ …など

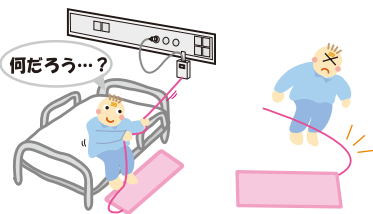
…など



「コールマット・コードレス」に変更し課題をクリア！



課題① 患者様が足を引掛けたり引張ったりしてしまう。
→引っ掛けの事故0ゼロ・引張りもなし！

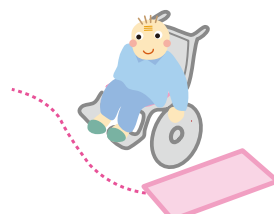


コードレスならケーブルがないのでセンサーに足を引っ掛けて転倒することがありませんし、ケーブルが目につき引っ張ってしまうといった心配もありません。

転倒要因となるものは取り除きたい！



課題② ケーブル部をベッドや車いすが通る
→断線故障0ゼロ！



ケーブルタイプのセンサーの修理で多いのが「断線故障」です。ケーブルの上をベッドや車いすが通ると断線する恐れがあります。コードレスタイプなら「断線故障」の心配がありませんので、無駄な修理費や、修理中にセンサーが使えない！なんてことはありません！



課題③ 電源を入れ忘れてしまう。
→一時停止機能で電源の入れ忘れ0ゼロ！



ベッド廻りの作業時に電源を切りそのあとに電源を入れ忘れたことはありませんか？無線中継ボックスには「一時停止機能」があり一定時間を過ぎると自動復旧するので電源を入れ忘れることはありません！



課題④ 設置時の面倒な配線作業が手間！
→設置や移動があつという間！



コードレスだから設置も置くだけらくらく♪

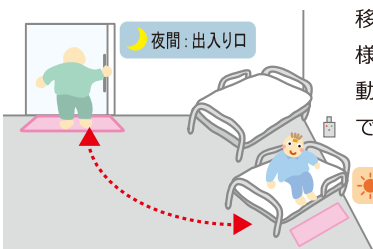
センサーを置き、無線中継ボックスを設置するだけで完了！センサーの配線を気にしないでいいので、あつという間に設置ができます。

ケーブルタイプは配線を考えたり少し手間でした。



応用編：夜間は出入りに移動

コードレスセンサーは配線の必要がないのでセンサーを自由に移動させることができます。例えば、昼間はベッドの横に設置し特定の患者様の離床を報知、夜間は部屋の出入りに移動させ、大部屋の患者様のトイレ行動や徘徊行動などを報知することができます。

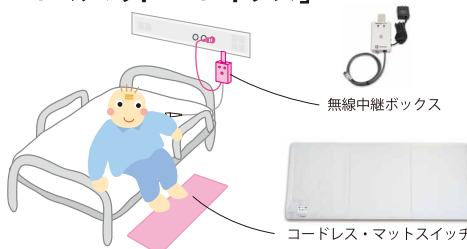


●夜間：出入り口
●昼間：ベッド横

※無線中継ボックスから約10mの範囲内に限ります。

皆さまの現場がより安全で安心できる療養環境になるためにテクノスジャパンのコードレスセンサーにはたくさんの工夫があります！そして安心の **“Made in Japan”**

「コールマット・コードレス」



- 「一時停止ボタン機能」付き
- 1台で5つのコードレスセンサーを登録可能。
- コードが一切ありません。
- 業界初！収納時にもスペースに困らない！3つ折りが可能！
- 電池は安心長持ちの約3年（1日5回作動した場合）
- お客様で電池交換ができます。